

燃料(蒸発ガス)の推計精度向上に向けた課題と対応方針について

燃料(蒸発ガス)の推計精度向上に向けた主な課題に対する対応方針を表1に示す。推計方法の見直しは、必要な基礎データが得られた課題、または、推計や仮定によりデータの代わりとなる情報が得られた課題から適宜実施する。

表1 燃料(蒸発ガス)に係る主な課題(1/2)

課題	見直しに必要なデータ	対応方針
1-1 ガソリンの種類別(夏用・冬用)・年別の蒸気圧データについて	・夏用ガソリンの蒸気圧 ・冬用ガソリンの蒸気圧 ※H12、H17～H26	● <u>現時点で見直し可能(H26のみ)</u> ・2015 入手済み(石油連盟殿提供) ・過去分についても提供いただける見込み
1-2 夏用・冬用ガソリンの販売時期・地域特性(販売実態)について	・夏用/冬用ガソリンの月別、地域別販売量	▲ <u>仮定を設けることで見直し可能</u> ・夏季(6月～9月までの4カ月)を夏用ガソリンとする等の仮定を設けて推計
1-3 都道府県別・月別のガソリン販売量データについて	・都道府県別の販売量 ・月別の販売量	● <u>現時点で見直し可能(H26のみ)</u> ・都道府県別の年間販売量(石油連盟)を用いて月別の全国販売量(資源・エネルギー統計年報)を案分 ・2つの統計データの組み合わせにより月別・都道府県別の販売量を推計
1-4 燃料タンクと気温の設定方法について	・燃料タンク温度	× <u>現時点での見直しは困難</u> ・知見が得られるまでは気温と同じと仮定
1-5 気温別、自動車タンク・地下タンク温度別のVOC組成について	・気温/自動車タンク温度/地下タンク温度別VOC組成	× <u>現時点での見直しは困難</u> ・知見が得られるまでは見直さない
2-1 受入ロスの排出係数のアップデートについて	・夏用/冬用ガソリンの排出係数(受入ロス)	× <u>現時点での見直しは困難</u> ・知見が得られるまでは現状の式を使用
2-2 蒸気回収装置の設置に関する条例の有無について	—	● <u>現時点で見直し可能</u> ・条例の有無に関するアンケート結果を用いて試算が可能
2-3 蒸気回収装置の蒸気回収率について	・蒸気回収装置の平均回収率	× <u>現時点での見直しは困難</u> ・知見が得られるまでは見直さない
2-4 蒸気回収装置の設置率について	・都道府県別の蒸気回収装置の設置率	× <u>現時点での見直しは困難</u> ・知見が得られるまでは見直さない

注:第2回検討会から追加した個所を網掛けで示した。

表 1 燃料(蒸発ガス)に係る主な課題(2/2)

課 題		見直しに必要なデータ	対応方針
3-1	ガソリンの VOC 成分の算出方法について	—	<p>× 現時点での見直しは困難</p> <p>・知見が得られるまでは見直さない</p>
3-2	ガソリンの組成の経年変化について	・年別の VOC 成分	<p>× 現時点での見直しは困難</p> <p>・知見が得られるまでは見直さない</p>
3-3	推計式の精度向上について(自動車自体の性能向上による排出係数の変化、自動車タンク内の燃料と給油される燃料の温度差の考慮 等)	<p>・車種別、年度別の給油ロス排出量(実験結果)</p> <p>・排出量の温度依存性</p>	<p>▲ 今後、見直しが可能</p> <p>・石油連盟殿より実験結果等が得られる見込みであるため、今後見直しが可能</p>
3-4	ガソリンの販売量のダブルカウントについて	・ガソリンの国内販売量	<p>● 現時点で見直し可能</p> <p>・資源・エネルギー統計の「国内向販売(ガソリン)」が実際にガソリンスタンドで販売された量に近いと見られるため、このデータを使用</p>
3-5	平均気温の算出方法について(日平均値ではなく、日中の時間帯の平均気温を使用すべき)	<p>・ガソリンの販売時刻</p> <p>・気温の時間値</p>	<p>● 現時点で見直し可能</p> <p>・ガソリンスタンドの平均的な営業時間から平均対象とする時刻を設定することで見直しが可能</p>
3-6	ガソリン以外の燃料について(軽油、バイオ燃料など)	<p>・燃料種類別販売量</p> <p>・排出係数</p>	<p>× 現時点での見直しは実施しない</p> <p>・軽油については、蒸気圧がほぼゼロであり、排出量への影響はわずかであるため、過年度と同様に考慮しない。</p> <p>・バイオ燃料については、知見が得られるまでは見直さない</p>

注: 第 2 回検討会から追加した箇所を網掛けで示した。